

健康

よもやま話



少し聞き慣れないかもしれませんが「間欠性跛行」という症状は「存じでしょうか。「間欠」は、

自動車の間欠ワイパーのように、一定の時間をおいて物事が起きたりやんだりすること。「跛行」とは歩行が障害されることです。具体的には、ある程度の歩行や立った状態で、下肢、臀部などに、だるさ、しびれ、痛みが出て、少し休むと再び立って歩けるようになる状態です。

原因は、腰部脊柱管狭窄症に代表される神経性、閉塞性動脈硬化症などによる血管性によるものに分類されます。まずはどちらが

清水 明

間欠性跛行を発症したら

主な原因なのかを知る必要があります。体を前屈すると下肢症状が軽くなり、逆に腰をそらすと下肢痛がでる場合、あるいは自転車に乗っていると症状が出ない場合などは、神経性が考えられます。

姿勢に関係なく休息で軽快し、足部の冷感や色調が悪い場合には、血管性を疑います。診察では足部の脈の触れ具合を、検査では上下肢の血圧比や、腰椎MRIにて神経の狭窄を調べます。

内服薬や注射で効果が薄い場合、それぞれの原因に対し脊椎、もしくはは血管の手術を行います。両方の要素が混在していることもあり、症状がある方は医療機関を受診しましょう。

(北國ドクタークラブ会員、いしぐるクリニック院長 金沢市)